

人権を尊重する地域を支える大人として

子どもは「学校・家庭・地域」の中で育ちます。教師として、家族として、地域住民としての人権意識を定期的にふり返り、広野町の子どもたちが「自尊感情」を高め、個性豊かに、明るく前向きに生活できるようにしましょう。



【大人のチェックリスト】 ※定期的に✓してみよう

	ふり返り項目	1回目	2回目	3回目
1	子どもを一人の対等な人間として大切にしていますか。			
2	子どもの意見と価値観を尊重するようにしていますか。			
3	子どもの言い分を頭から否定することなく、耳を傾けるようにしていますか。			
4	子どもが自分の考えを言ったり、自分で決定したりする機会を認めていますか。			
5	学力や運動能力等で子どもに優劣をつけることなく、一人一人のよさや努力した過程を見るようにしていますか。			
6	子どもが安心して、間違えたり、考えを変えたり、「分かりません」と言えるような雰囲気づくりに努めていますか。			
7	「男の子だから〇〇しなさい」「女の子だから〇〇してはいけない」と性別を理由に、言葉を発しないようにしていますか。			
8	いじめは人権侵害であることを理解し、いじめという行為はあってはならないことなのだとして毅然とした態度で接していますか。			
9	いかなる場合にでも体罰はしてはいけないと、自分に言い聞かせていますか。			
10	「〇〇さんの家族って…よね」と子どもに聞こえる場所で、他人の悪口や否定的な言葉を話さないようにしていますか。			
11	子どもが間違えたことや失敗したことを、大勢の人がいる前で指摘しないように心がけていますか。			
12	人権教育の視点から、子どもの手本となるような言葉づかい、行動をとっていますか。			

〔参考資料：人権擁護のためのセルフチェックリスト（全国保育士会）〕

このリーフレットを手にした皆さんへ

東日本大震災から10年が過ぎようとする現在、広野町では、住民の帰還や他自治体からの転居、避難先での学校運営、地元での学校再開等、様々な困難な状況に直面してきました。人権に関しても、大震災に起因したいじめ、風評被害、正しい知識に基づいた放射線の知識不足による偏見等の課題が県内外で見られます。それに加え「新型コロナウイルス感染症」拡大における人権侵害等の問題も生じてきました。

昔から広野町に住む皆さん、震災後広野町に移住してきた皆さん、町立学校と県立学校に通う児童生徒等、広野町には様々な立場の、多様な価値観をもつ住民の皆さんがたくさんいます。住民一人一人が互いを尊重しながら、自分の夢に向かって、個性豊かに、他者と協働しながら生活できる地域を目指していきたいと考えています。学校・家庭・地域それぞれの立場で、この広野町における人権教育の推進にご理解とご協力、そしてこのリーフレットの積極的な活用をよろしくお願いいたします。



発行者：広野町教育委員会学校教育課（福島県双葉郡広野町大字下北迫字苗代替35 / 電話：0240-27-4166）

広野町人権教育リーフレット

広野町教育目標「夢や希望を抱き 未来をたくましく生き抜く 幅広い見識と創造性の育成」

つながり

～校種や業種を越えて 教科の枠を越えて
学びがつながり続ける 広野町の教育～

学校・家庭・地域 みんなで人権教育を推進していくために

人権教育を通して育成したい資質・能力

子どもは「学校・家庭・地域」の中で育ちます。「学校・家庭・地域」が同じビジョンをもち、それぞれが連携して子どもを育てていくことが必要です。では、どんな力を育成するために、それぞれがどんな関わりをしていく必要があるのでしょうか。



【知識的側面】

- ・自由、責任、正義、個人の尊厳、権利、義務等の諸概念についての知識
- ・人権の歴史や現状、法令、人権侵害を予防したり、解決したりするための知識

【価値的・態度的側面】

- ・自他の良さを見つけ出し、その可能性を信じる態度
- ・多様性を認める心情
- ・自分の行為に対する責任感
- ・正義や自由、公正公平の実現に向かう意欲や態度

【技能的側面】

- ・他者と人間関係をつくる力
- ・偏見や差別を見極める力
- ・相手を尊重しながら自分の気持ちや考えを表現する力
- ・他者の心の痛みを自分の経験と結びつけて推し量る力

人権教育の指導方法等の在り方について【第3次とりまとめ】より（文部科学省 平成20年3月）

- たえまない愛情・受容的態度
- ・言葉かけ ・しつけ
- ・立ち振る舞い
- 授業・学校行事・研修等への積極的なかわり
- 学校への情報提供・活動支援 等

- 日常的なあいさつや見守り
- 豊かな体験活動等の提供と活動への支援
- 学校行事等へのかわり
- 専門的アドバイスや外部講師による講話や演習 等



家庭



地域



学校

- 個性を尊重した指導と支援
- 望ましい人間関係づくりへの配慮
- 道徳教育の充実
- 自主性や主体性を重視した指導と支援
- 子どもの「感」でつくる教育活動

- 同学年、異学年、異校種、地域の人と学ぶ活動の工夫
- 安全で安心できる環境づくり
- ボランティアやキャリア教育等における体験活動の充実 等

2021年2月 広野町教育委員会

広野こども園・小・中学校での取り組み

子どもたちの「どうしてだろう?」「次はもっとこうしたい!」という思い・願いに寄り添いながら、授業を行っています。授業づくりにあたっては、学習過程における「こどもの『感』」を意識し、「学びに対する強い動機付け」「課題解決の促進・多様な活動の保障」「学びの意味付け」の3つを大切にしています。



広野町で大切にしている「子どもの『感』」



段階	課題把握	課題解決 個 ↔ 集団	振り返り
ねらい	【学びに対する強い動機付け】 ○ 課題をつかむことができるようにする。 ○ 解決の方法を見通すことができるようにする。	【課題解決の促進・多様な活動の保障】 ○ 自分なりの方法で課題解決を図ることができるようにする。 ○ 協働して課題を解決し、話し合いの質を高めることができるようにする。	【学びの意味付け】 ○ 学びを確認・実感し達成感を得ることができるようにする。
教師の支援内容	教材との出あわせ方 ・既習事項と矛盾、ズレのある課題等の提示 ・前時・単元での振り返りの活用 ・資料・調査結果等の提示	解決の手順や方法の確認 ・生活経験・既習内容との関連化 ・試しの活動の設定 ・考えをつくる手順や方法の示唆 ・役割分担の提示	自分なりの方法による解決 ・各教科等で働かせたい見方・考え方への価値付け ・教具や資料、モデル等の提示 ・解決過程の可視化
子どもの「感」	他者との協働による課題解決 ・話し合う目的・内容・方法の明確化 ・思考過程の可視化 ・問い返しによる考えの共有化 ・揺さぶりによる考えの焦点化	振り返りの場の設定 ・発表する内容、振り返る内容を明確にした場の設定 ・子どもの自己評価と教師の評価・価値付け ・評価問題の活用	【学びの意味付け】 ○ 学びを確認・実感し達成感を得ることができるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> あれ? どうしてだろう。やってみよう。【期待感】 ここまでは分かるけど、ここからどうしようかな。【困り感】 	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇の方法で解決できるかもしれない。【必要感】 〇〇に聞いてみると〇〇が解決できるかもしれない。【必要感】 	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇の手順で考えると□□になった。 〇〇の方法でまとめることができた。 〇〇をもとに考えを作り直せたよ。
<p>■ みんな(友だちや教師)がしっかりと聴いてくれるから、自分の考えを話してみようかな。</p> <p>■ □□が分からないから、〇〇さんに相談してみようかな。 【安心感】</p>			

3つの学習過程で教師が意識したい「子どもの『感』」

家庭における人権教育

子どもの人権意識を育むために、地域や学校において様々な取組がなされていますが、すべての教育の出発点と言われる家庭教育においても、その役割が求められています。家族や親子の日常生活での関わりについて「人権」という視点で振り返ってみましょう。



こんなことはありませんか?

事例1

子ども「今日学校でさ…」
大人「今忙しいから、あとにして!」
(その後、子どもと話をする場をつくらない)

事例2

子ども「この問題分からないんだけど…」
大人「こんなこともできないの? 全く…」
(大人目線で、その場の感情で怒ってしまう)

事例3

(うまくいかなかった子どもに対して…)
大人「お兄ちゃんは〇〇だったのに…」
(兄弟や他の友だちと比べ、優劣をつける)

こんな対応にしてみてもはどうでしょう?

何か重要な話があるのかもしれませんが、しっかり子どもの表情や様子を見てください。その上で「〇〇なら時間取れるけど、それでもいいかな」と言われるだけでも、子どもは安心しますね。

「できない」「分からない」と言った子どもが恥をかしい状況にあります。この場面は「分からないことを自分から質問できた」この行為を認め、話を聴く姿勢が大切です。

このような言葉をかけられた子どもはどう思うのでしょうか。結果だけを見て、他と比較するのではなく、これまでの過程を認めつつ、これからどう対応すればよいのか一緒に考えてみましょう。

子どもの確かな人権意識を育むために…



安全で安心できる環境

自尊感情を育む

「自分が大切にされている」という感覚



安心して生活できる環境や「自分の思いを受け止めてもらえた」「いつも自分を見てくれている」など、自分が大切にされているという感覚や経験は、自尊感情を育むことにつながります。また、自分を大切に思うことは、他人を大切にすることを高めることにもなります。日頃からのコミュニケーションが大切です。

聴

- うなずいたり、あいづちをうったりしながら「うん、うん」「それで?」「なるほど」これだけでも「自分は受け入れられている」と感じます。
- 子どもが話すキーワードを繰り返す「〇〇なのね」「△△なの?」大人に共感してもらえると安心感から、自己肯定感も高まります。
- 子どもが話した内容に質問してみる「その時どうだったの?」「それで?」子どもは自分に興味をもって聴いてもらえると感じます。

言葉かけ

- 結果よりも過程(プロセス)を重視する「ここまでの努力がすばらしいね」「これまで本当にかんばってきてよかったね」結果もこれまでのかんばりも、どちらも認めてもらえたという嬉しさを感じ取ることができずね。
- "あい"メッセージを送る"あい(相)"手の気持ちに共感し、"I(私)"の気持ちを伝えましょう。「よかったわね。やったね。私も嬉しいよ!」「あなたが楽しそうだと、私も楽しいな」